



平成22年11月29日

掃除中の救急事故

～大掃除中に事故多発、掃除中の事故には十分注意を！～

東京消防庁管内では、平成18年1月から今年9月までの4年9カ月の間に、掃除中に脚立から転落したり、誤って混合した洗剤等から発生した有毒ガスを吸い込むなどして、1,803人が医療機関に救急搬送されています。

特に12月は他の月に比べ掃除中の事故により医療機関へ搬送された方が突出して多く、当庁では、大掃除の時期を迎えるこの時期をとらえ、掃除中の事故に十分注意するよう呼びかけています。

掃除中の救急事故の特徴は次のとおりです。

- ① 12月は、他の月の2.5倍以上の事故が発生しています。
- ② 年齢層別では、65歳以上の高齢者が871人と、全体の約5割を占めています。
- ③ 医療機関での初診時の程度別にみると、約70%は軽症ですが、入院が必要な中等症以上の事故も多く発生しています。
- ④ 受傷形態は様々ですが、12月中の事故に絞ると、「床で滑って転倒した」事故や、「テーブルの上に乗って天井を掃除していたところ、バランスを崩し転落した。」「窓の拭き掃除が終わり、脚立から降りようとしたところ、踏み外して地面に墜落した。」などの、転倒・転落・墜落事故が全体の約70%を占めています。

「#7119を利用しよう！」

病院へ行った方がいいのか、又は、救急車を呼んだ方がいいのか、判断に迷った場合には「東京消防庁救急相談センター（#7119）」へご相談ください。

詳細は、別添え資料をご覧ください。

問い合わせ先

東京消防庁（代） 電話 3212 - 2111
生活安全課生活安全係 内線 4207
広報課報道係 内線 2345～2349

別添え

掃除中の救急事故

1 年別の救急搬送人員

今年は、9月末時点で322人となっています。このまま例年通りのペースで事故が発生すると、今年の搬送人員は450人を超え、過去5年間で最も多い搬送人員になることが予測されます。(図1)

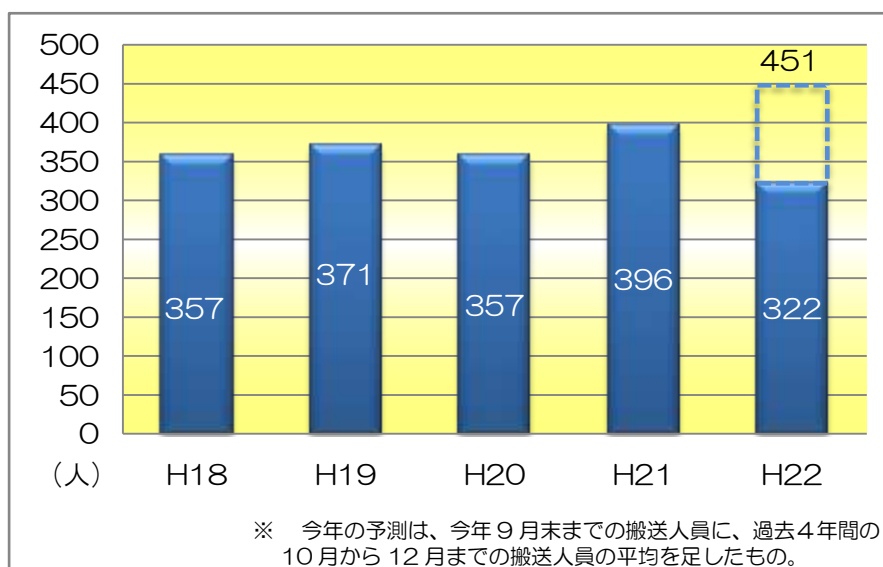


図1 年別の掃除中の事故による救急搬送人員

2 月別の救急搬送人員（平成18年から平成21年の4年間）

月別にみると、大掃除の時期である12月に事故が集中しており、他の月の倍以上の事故が発生しています。(図2)

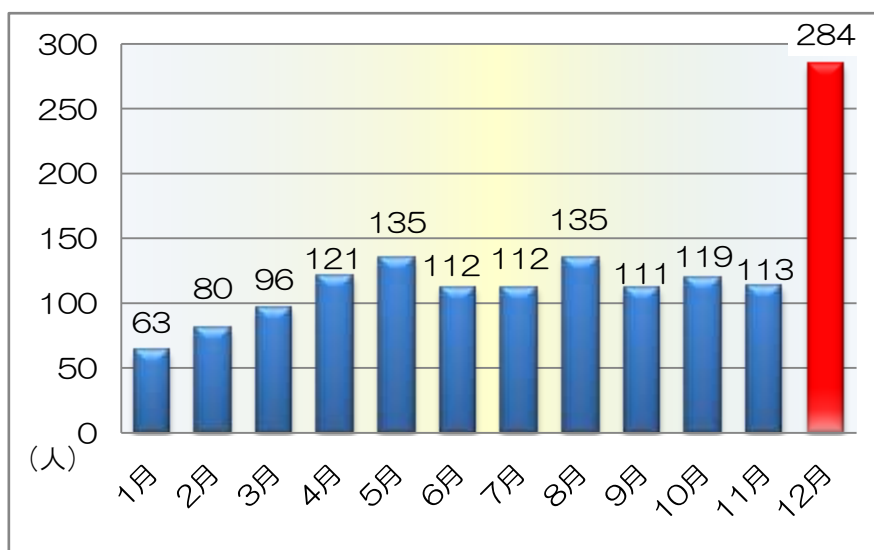


図2 月別の掃除中の事故による救急搬送人員

3 年齢層別の救急搬送人員及び高齢者の占める割合

平成18年1月から平成22年9月までの間に医療機関へ搬送された方を年齢別にみると、高齢の方が多くなっています。(図3)

また、高齢者(65歳以上)についてみると、救急搬送人員、全体に占める割合共に年々増加しており、今年は9月末時点で175人、54.3%となっています。年間では250人近くになることが予測され、4年前にくらべ約1.6倍と憂慮すべき状況です。(図4)

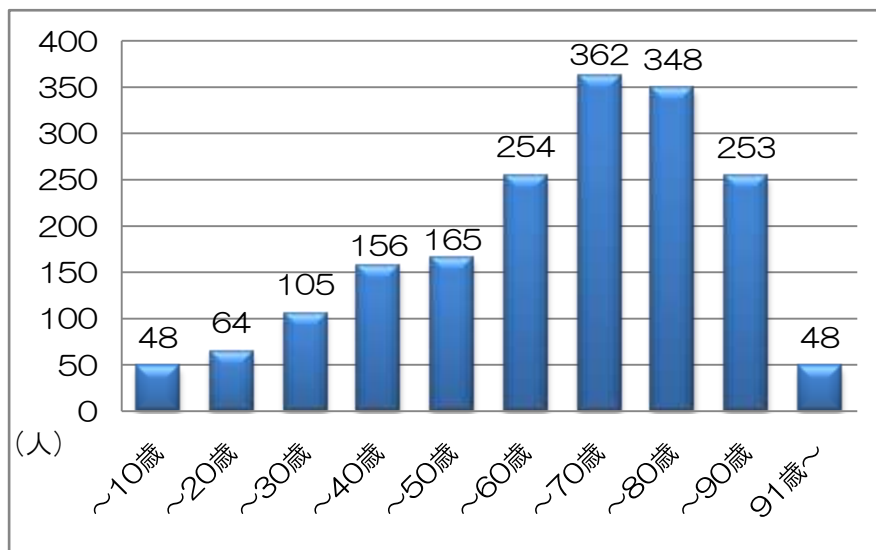


図3 年齢層別の掃除中の事故による救急搬送人員

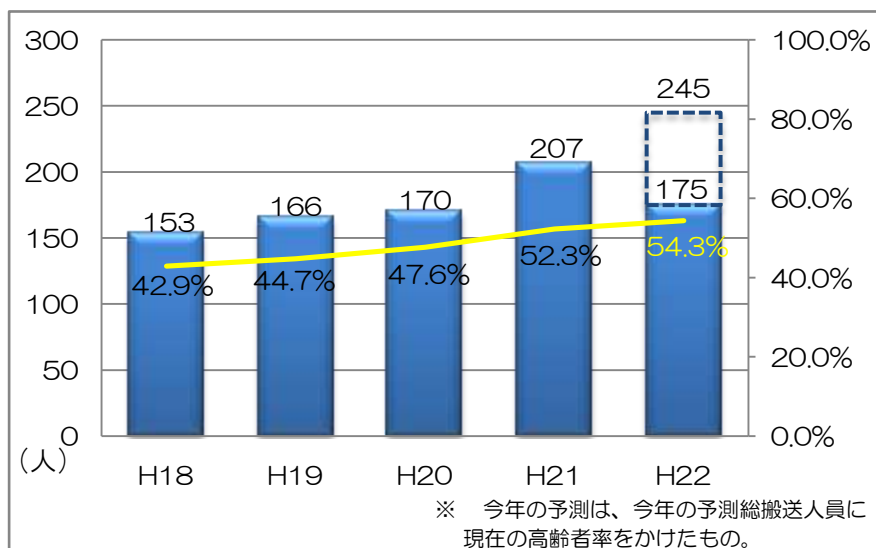


図4 高齢者の掃除中の事故による救急搬送人員

高齢者の事故が増えている背景として、高齢者の人口が増えているほか、高齢者の一人暮らしや、高齢者のみ世帯の増加に伴い、「年齢的にはきつい掃除でも、自分でやらなければならない」方が増えていることが考えられます。

4 12月における事故発生時の受傷形態（平成18年から平成21年の4年間）

受傷形態は様々ですが、12月中に絞って見てみると、「床で滑って転倒した。」「椅子から転落した。」といった、転倒・転落・墜落が全体の70.8%を占めており、掃除中は、足元に十分注意する必要があることがわかります。（図5）

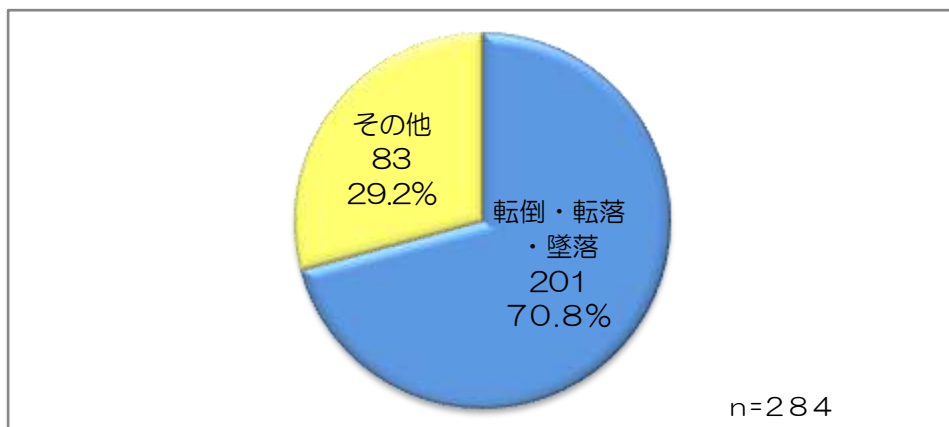


図5 事故発生時の受傷形態

(1) 転倒・転落・墜落事故

転倒・転落・墜落事故の状況をみると、「転落・墜落」による受傷で救急搬送される方が多く、全体の3分の2を占めています。（図6）場所は、「イス・踏み台から」が最も多く、続いて「脚立・はしごから」、「階段から」の順となっています。

また、窓・ベランダからの墜落は、9件発生していますが、うち7件が中等症以上と診断されており、高所で掃除をする際は、特に注意が必要です。

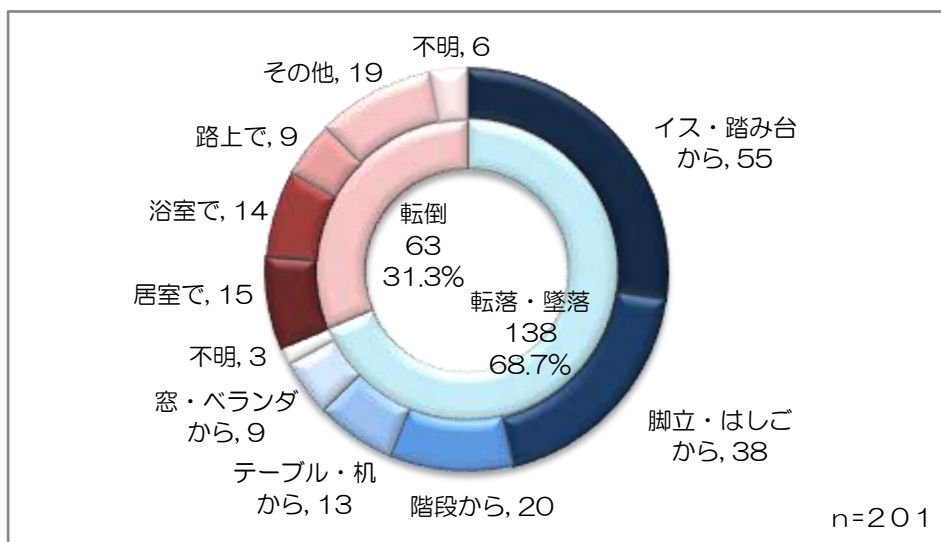


図6 転倒・転落・墜落事故による救急搬送人員

(2) 転倒・転落・墜落以外の事故

転倒・転落・墜落以外の事故における関係器物を調べると、洗剤、漂白剤によるものが最も多く、17件発生しています。(図7)

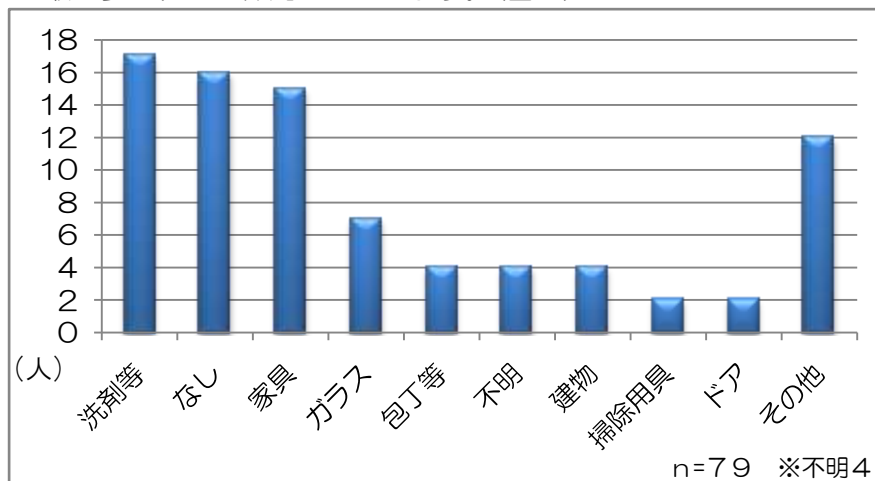


図7 転倒・転落以外の事故に係る器物

特に、洗剤や漂白剤による中毒事故は、年間を通して発生しており、「塩素系と酸性の洗剤を誤って混合させてしまったために、有毒ガス(塩素ガス)が発生し、めまいや立ちくらみがしたため救急要請をした。」という事案のほか、「親が掃除中に置いた洗剤を、子供が誤って飲んでしまった。」という例や、「高齢者が、茶しぶを取るために湯のみを漂白していたのを忘れて、中に入っていた漂白剤を飲んでしまった。」という例があり、幅広い世代にわたって事故が発生しています。

5 初診時程度別の救急搬送人員(平成18年から平成22年9月まで)

医療機関へ搬送された方の初診時の程度別では、軽症が全体の約70%となっていますが、入院が必要な中等症以上と診断される人も多く発生しています。(図8) けがは、打撲、挫創、骨折などが多くなっています。

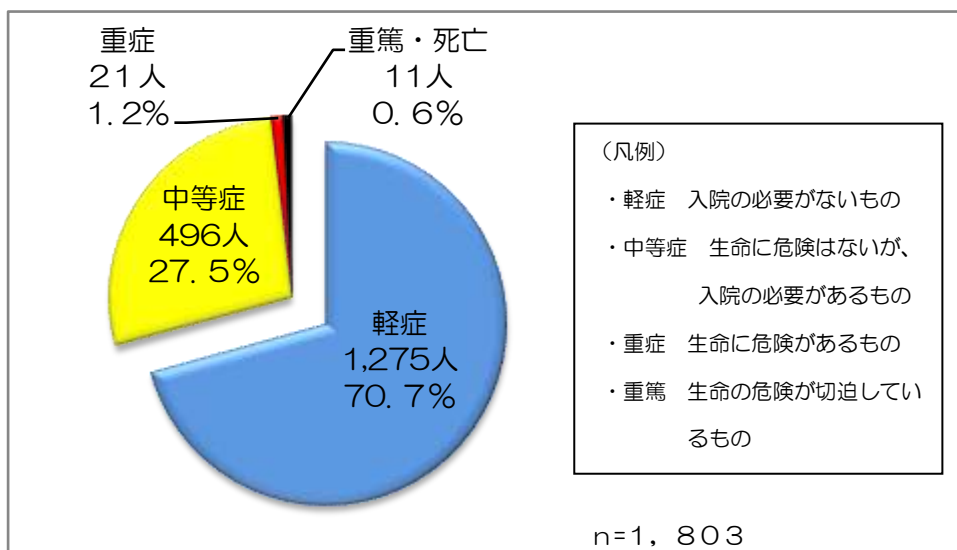


図8 救急搬送された方の医療機関での初診時程度

6 事故事例

- (1) 60歳代の男性が、エアコンの掃除をしようと椅子に上った際に、バランスを崩して床に転落し、右膝を強打した。(中等症)
- (2) 60歳代の女性が、キッチンカウンターの上に立ち掃除中、バランスを崩し転落し、シンクの縁に右脇腹を強打した。(重症)
- (3) 20歳代の男性が、排水溝を掃除中に排水構内にあったガラス製コップの破片で左手薬指を受傷し、出血が止まらないため、救急要請した。(軽症)
- (4) 70歳代の女性が、イスに上がり浴室を掃除中に突然イスが壊れたために転落し、床に背中を強打した。(軽症)
- (5) 親が自宅浴室内を清掃中に内側からドアを閉めた際、側にいた0歳の子供がドアに手を挟まれ受傷した。(軽症)
- (6) 40歳代の女性が、台所シンクの排水管に液体洗剤を流したところ、液体洗剤が、その前に投入した固形洗剤と混ざり、発生した有毒ガスを吸引した。
(中等症)

7 事故防止のポイント

大掃除をする際は、主に次のことに注意しましょう。

- 1 脚立やいすなどに上がって掃除をしている際の事故が多いので、高所で掃除する際は、安定した足場を選び、片方の手でしっかりと固定された家具等につかまるなど、バランスを崩さないように十分注意するとともに、降りる際は足を踏み外さないよう注意する。
- 2 年齢や個々の体力を勘案し、無理な作業は控える。
- 3 自分だけでなく、周囲の人の状況にも気を配る。特に窓や扉の開閉時は自分だけではなく、他の人の指などを挟まないように十分注意する。
- 4 洗剤や漂白剤は使用上の注意書きをよく読んでから使用し、複数の洗剤や漂白剤を混ぜて使用しない。また、洗剤等を使用する際は部屋の換気に十分注意する。
- 5 漂白剤や洗剤は、子供が誤飲してしまう可能性があるため、子供の手の届く場所に放置しない。

東京消防庁

救急相談センター

#7119

(携帯電話・PHS
プッシュ回線)

24時間年中無休

救急相談・医療機関案内

その他の電話やつながらない場合は

03-3212-2323(23区)

042-521-2323(多摩地区)

急な病気やケガをした場合に、「救急車を呼んだほうがいいのかな?」「今すぐ病院に行った方がいいのかな?」など迷った際の相談窓口として、「東京消防庁救急相談センター」を開設しています。